

1 日通学ルポ (代行運転時)



越前大野駅で

毎日、車で通学している私なのですが、(全線開通する前の代行運転を行っていた時期に) 一日越美北線を使って通学してみました。まず、切符を買っていると列

車から降りてきた、乾側小学校の児童と会いました。今日は越美北線を利用して、大野の七間朝市のお勉強(実習)にやって来たとのことでした。「車窓から山や田んぼが見えて楽しかった」と話していました。

越前大野 美山間

福井 行き 列車に乗り込んで、いよいよ出発! その日は試運転を開始した日だったので、数人のJR関係者の方が乗車していまし



た。車内では、二人の乗客の方にお話をお聞きしました。一人は、年に二、三回大野に帰る時は越美北線を利用してという、静岡に住んでいる女性でした。「学生時代から乗っているから乗り慣れて

美山 福井駅

美山駅に到着して、代行バスに乗り換えます。この日は小雨が降って

いるし、車内での会話を聞くと、言葉がゆっくりしていてふるさとに帰ってきたんだなと感ずることができました。もう一人は、毎日通学で利用しているという男子大学生の方でした。「家の前に線路があり、小さいころから見ている越美北線に乗ることは想いが強いし、今こうやって通学出来るのがうれしい」と話してくれました。



たので、荷物をいくつも持っている人は移動が大変そうでした。バスの中でも、毎日越美北線を利用しているという女子大学生の方にお話をお聞

みんなから愛される越美北線



てくてくリポート

12

~リポーターがお伺いします~



リポーター

しまさき 島崎 みゆきさん (21歳 木本)

バスの乗り換えが不便だと言われていた全線復旧前の越美北線に乗って、乗客の方の声を聞いてみました。「不便だけど、仕方がない」。それ以上に越美北線への愛着の声が多く聞かれました。

越美北線フォトコンテストで金賞

松村さんへのインタビュー

「ゆったりと時が流れていく」。この写真からそんな穏やかな印象を受けました。この写真は、越美北線が地域になじんだ存在であるということが一目でわかるすてきな写真だと思いました。

そこで松村透さん(勝山市)に、写真にまつわるエピソードや大野の魅力についてお話を伺いました。



松村さんの受賞作品「^{たの}総出の愉しみ」

Q1. この写真は昨年8月末に大野市板倉で撮影されたそうなのですが、どうしてこのような写真を撮ろうと思ったのですか？

国道158号を車で走っていたら、かかしがいくつも立っているのが目に留まったんです。それで、その近くで農家の人たちが和気あいあいと仕事をされていたので、カメラを向けてみたんです。

Q2. 越美北線にまつわる思い出などありますか？

昔は国鉄マンになりたかったのですが、中学生の時は勝山からよく見に来ましたね。福井から越美北線に乗って大野まで来て、勝山まで歩いて

帰ったこともあります。

Q3. 市外の方から見て“大野のいいところ”はありますか？

大野に行くと、いつも向こうから声をかけてくれるんですよ。「こんにちば〜」って普通に声かけてくれて、それがうれしかったですね。娘も大野の友達には人なつっこいし、優しいって言っていましたね。素直って言葉が、まさに当てはまる土地柄だと思いますね。



松村さん、急な取材のお願いにも、快く引き受けてくださりありがとうございました。

きしました。「乗り換えは大変だけど、二十分に一回、外の空気を吸えるので、酔いや暑い私にとってはよい気分転換になりまし

たから、全線開通後の越美北線に乗るのがすごく楽しみです

す」とうれしそうに答えてくれました。そして越前東郷駅でまた列車に乗り換えて、福井駅まで

乗車しました。インタビューの際の越美北線について語る皆さんの顔は、とても優しく、愛情に満ちているように感じました。また、久しぶりの越美北線の乗り心地はよかったです。いつも車を運転してい

全線復旧を前に、連日テレビや新聞などで取り上げられる越美北線の話話をたくさん耳にしました。試運転で列車に手を振る沿線の人の写真を見て、いかに地域の人々が運転再開を待ち望んでいたかが伝わってきました。

またこの取材を通して、越美北線が皆さんに愛されている存在だということを実感しています。

私たち大野市民の交通手段としてだけでなく、大野に来られる方々にも越美北線を利用して来ていただくことが、今後の課題になっていくと思います。

全線復旧後の越美北線は、代行運転時と比べると、乗り換えもなく、便利になりました。乗車時間も短縮され、ますます乗りやすくなったと思います。私もこれから、福井駅まで行く手段としてどんどん利用していきたいと思っています。

ました。存続を危ぶまれた越美北線が、六月三十日をもって復旧できたのは、越美北線に携わる人たちがすべての熱意の賜物だと思いました。今までは当たり前存在として捉えていた越美北線が、これからはなくてはならないものとして守っていかねければならないと強く感じました。奥越の田園風景の中を走り抜ける、越美北線の姿をこれからも残していきたいと思

取材を終えて

越美北線に対する私の想い



る時は、常に気を配っていないといけないので疲れませんが、列車だとゆっくり風景を見て過ごしたり、居眠りしたりすることも出来るので安心できました。

ました。存続を危ぶまれた越美北線が、六月三十日をもって復旧できたのは、越美北線に携わる人たちがすべての熱意の賜物だと思いました。今までは当たり前存在として捉えていた越美北線が、これからはなくてはならないものとして守っていかねければならないと強く感じました。奥越の田園風景の中を走り抜ける、越美北線の姿をこれからも残していきたいと思



市民のページ

「ソフトバレー」和気あいあい



九月十五日から十七日にかけて、エキサイト広場と大野高校体育館を会場に「全国ソフトバレー・レディース&メンズ交流大会」が開催されます。全国から男女四十八チームずつが参加。市内でソフトバレーボールに取り組む「ばれいしょ」の男子メンバーがこの大会に出場します。

ばれいしょは、今から七、八年前、それまで綱引きをやっていた女性メンバーが違う競技に挑戦しようと結成しました。その後、男女混合の部にも出場したいと男性メンバーを募り、現在約三十人が所属。週二回、市内の体育館で練習を行っています。

また夏と冬の年二回、ばれいしょ主催の大会を開催しています。県内はもちろん、石川県や岐阜県などのチームも含め、毎年五、六十チームが参加。大会を通してお互いのレベルアップはもちろん、交

流を深めているそうです。

ソフトバレーボールは、パドミントンダブルスの大きさのコートに高さ二メートルのネットを張り、一チーム四人で戦います。部活動やママさんバレーのコーチとしてバレーボールの経験を持つ桑盛善一さんは「コートが狭く、ネットも低い上、ボールの硬さが少しでも違つとサーブやアタックに影響してくるので、慣れるまでは苦労しました。ただ、年齢の差を感じることもなく、若い人と同じレベルで競技できるのがいいですね」と話してくれました。

男子メンバーが参加する全国大会は大野高校体育館を会場に開催されます。十六日に予選リーグが、十七日には決勝リーグが行われます。女性メンバーからは「いつも和気あいあいの雰囲気練習しています。ばれいしょの名誉にかけて頑張つてほしいですね」



とエールが。代表の横山勝浩さんは「これまで県大会準優勝が三回あり、なかなか全国大会に出場できなかったのですが、メンバーには念願だった全国大会での試合を楽しみ、全国のレベルを知ってもらえれば」と語ってくれました。

全国大会を観戦して、ソフトバレーボールを肌で感じてみてはいかがでしょうか。

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は、
情報広報課まで ☎0779・66・1111



日置 弘志さん (大野東高2年)

日置さんは、7月に広島県で開かれた「全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」に出場しました。日置さんの取り組むビームライフルは、立射(立った状態)で10発先の的を狙い、その総得点を競う競技で、的の中央にある10点の直径はたった1mmです。

——全国大会までの道のりは

予選となる県大会は、まず1時間に60発撃ち、総得点の上位8人を選びます。その8人でさらに10発撃って、3位までに入った人が全国大会に出場できるようになっています。60発撃った時点での点数は535点で4位でしたが、残り10発で92点をとって3位に入るこ



とができました。全国大会では、ジュニアオリンピック出場の基準となる30位以内を狙って、一発一発集中し575点獲得しました。順位は85位でしたが、楽しんで競技することができました。

——ライフルを始めたきっかけは

中学校の文化祭で、ライフル射撃の体験会に参加したのがきっかけです。銃を持つ経験なんてほかではできないだろうと思い撃ってみました。大野東高校に同好会があると聞いて入学したのですが、先輩は卒業していて部員は僕一人です。今はエキサイト広場で、大野市ライフル射撃協会の人たちと一緒に練習しています。

——魅力やこだわりは

引き金を少し引いて息を止め、的の中央に焦点を合わせ撃つのですが、立ち位置が重要なので、自分の形を決めてから撃つようにしています。やっぱり10点に当たった時がうれしいです。

——今後の目標は

来年こそ全国大会で30位以内に入り、ジュニアオリンピックに出場したいです。そのため練習の時からしっかり考え、取り組んでいきたいと思っています。

高校ライフル射撃で全国大会出場
「楽しんでプレーできた」

【一般小説】
ランナー (あさのあつこ) 独り群せず (北方謙三) ドン・キホーテの末裔 (清水義範) 愛情 (花村萬月) **【ノンフィクション】** 小谷城挽歌 (三田村順次郎) そっだったのか! 中国 (池上彰) もし、あなたが、その子だったら? (ほんの木) さあ、化石をさがしにいこう! (自然環境研究所 オフィス)

新着図書

【児童図書】
おしたちのえんそく (久住卓也) もりのびょういん (渡辺鉄太) せとうちたいこさんわらべうたうたいたい (長野ヒデ子) うしろにいるのはだあれ (ふくだとしお) **【絵本】** 獣の奏者Ⅰ、Ⅱ (上橋菜穂子) がんばれヘンリーくん・ヘンリーくんとアパラー (クリアリ) 小人たちの新しい家 (フートン) ポータブル・ゴースト (マーヒー)



図書館



読書のススメ

『「ピーターラビット」の丘から』

マーガレット・S・ユアン 著
奥田 実紀 訳
文溪堂 刊

『ピーターラビットのおはなし』は、1901年から今日まで出版され続け、世界30カ国以上で翻訳されている絵本です。その作者であるポターの伝記が出版されました。

ポターは1866年にロンドン郊外の裕福な家庭に生まれました。6歳の時に一人の家庭教師と出会い、ポターの優れた感性がどんどん磨かれていきます。ポターの生き方から、世界中の子どもたちに彼女の絵本が支持されている理由が見えてくる本です。

子どもたち「アジメ漁法」習う

貝皿、後野、朝日区に住む小中学生約20人が8月6日、清流にしかすめない「アジメドジョウ」の漁法「あじめおとし」を学習しました。地域の良さを子どもたちに伝えるため計画された活動で、子どもたちは実際にアジメドジョウを手に取りながら、仕掛けの方法など興味深そうに聞き入っていました。



少年少女クが防火学ぶ

少年消防クラブ連合会の夏季研修会が7月26日に開かれました。小学4年生以上のクラブ員約110人が参加。訓練所での濃煙体験をはじめ、有終会館では防火クイズや消防士が使用する重さ15⁺の空気呼吸器を担ぐ体験などが行われました。

中学生が広報取材体験

7月31日、陽明中学校の2年生5人が職場体験として市役所を訪れました。広報紙作成の体験では、本願清水イトヨの里で開催されていた企画展を取材。見学に来ていた開成保育園の園児の様子などを細かく聞き取ったり、写真に収めたりしていました。



そば産地PR

県内有数のそば産地をPRするため8月12日、「越前おおのそばまつり2007」を開催しました。会場の有終会館には大勢の市民が訪れ、そば打ちを体験したり、市内4団体の打つ大野産そばを食べ比べたりしていました。



話題のひろば

第40回おおの城まつり

大野の夏を彩る「おおの城まつり」が8月13日～16日にかけて開かれました。今年は40回目を記念して「提灯行列&人文字をつくろう」や「ちようちん“開運”太鼓&もちまき」など多彩なイベントが行われ、大勢の市民でにぎわいました。



越前大野城の広場で行われた「“開運”太鼓&もちまき」(16日)



まつり開幕を告げる4600発の花火に見入る市民(13日 真名川憩いの島)



ちようちんを手に七間通りを歩く約1000人の参加者。その後、有終西小学校グラウンドで人文字「おおのしろまつり」を完成させました(15日)



「打ち水」でもてなし

8月15日、名水を活かした水先案内実行委員会による打ち水体験が行われました。地元高校生と越前大野ふるさと大使22人が参加。ちようちん行列が通る七間通りで水を打ち、行列参加者をもてなしました。

サトイモ赤飯



材料 (分量の割合)

もち米 1升に対して、
 ・小豆 1合
 ・サトイモ 1*。
 ※もち米の分量に応じて、小豆・サトイモの量を変える

今後は「サトイモ赤飯」です。
 今後も伝え残したい郷土料理。

伝えたい郷土料理

作ってみよう

【まず】サトイモはしょうゆを控えめに煮る。小豆はもち米の1.2倍の水で歯ごたえが残る程度に煮る。もち米は洗って、小豆を煮た煮汁に一晩つけておく

- ①もち米をザルにあげて水を切り、煮ておいた小豆を混ぜる(煮汁は捨てない)
- ②せいろまたは蒸し器に蒸し布をひき、①のもち米を入れる。さらに蒸し布をひきサトイモを入れて50分程度蒸す
- ③一旦せいろをあげて、サトイモの上から水(または①の煮汁)を打ち、さらに30分程度蒸す
- ④ボールなどに移し、よく混ぜ合わせる

達人のワンポイントアドバイス

サトイモを煮る際は煮物を作る半分程度のしょうゆの量で、煮くずれしないよう気をつけて。水を打つ際に小豆の煮汁を使うことで色合いがよく出ます。

(食生活改善推進員連絡協議会 齊藤博子さん)



注：水を打つとは、水をかけること

市民のうごき

平成19年8月1日現在

世帯数	12,293世帯 (-4世帯)
人口	38,982人 (-10人)
〈男〉	18,606人 (-3人)
〈女〉	20,376人 (-7人)

◆7月中の内訳

転入	62人	出生	27人
転出	65人	死亡	34人

を抱えて各会場を駆け回りまして。十六日に越前大野城で行われた「開運、太鼓&もちまき」には、約二百人が参加。屋根瓦の修復を終えた城の下で、もちや菓子を手いっぱいしながらも、さらに「ちよーだい」と叫ぶ女の子。記念すべき四十回目のまつりは、記憶に残るまつりとなりました(林)



編集後記

四十回目を迎えた城まつりに参加されまして。城まつり期間中は好天が続き、カメラ



列島は激・烈震が続く。ヨーロッパで熱暑だ。参院選では与党大敗し、国外も戦乱とテロ。天変地異や内憂外患、多事多難であるーが、風立ちぬ。爽

涼の月▼なお残暑、震災地・被災者などへお見舞い。防災の月なので気を引き締めねば。申し訳ないが当市は、市政や生活環境も多事多難ではあれ、まずは平穩に大過なしは幸い▼ところで七月末「森と湖に親しむ旬間」にちなむ例年の集いが真名川・九頭竜川であった。旬間関連行事は国、自治体などの機関が毎年各地ごとに行っている▼その核となる来年度の「全国森と湖に親しむつどい」が、当市で開催と決まった。もちろん全国大会は県内初で、市には現地実行委が発足、事業計画を進めている。今夏の開催地・山形県寒河江ダムへ参加、既に開催旗も引き継いだ▼森と湖は、古来神秘性とロマンをもつ。詩歌などの芸術にもうたわれ、幾時代の物語を編んだ。今は癒し・安らぎとレジャーの景勝地ともいえるか▼あったのである「玉」が。広大な森林面積と多くのダム・人造湖をもつ、当市はあげて再認識とこれを誇ってしかりだ。大会の成功と盛況を期す。ともにこの機に宝の持ち腐れにならぬよう再考したい▼それにしても、森と湖の資源をもっと活かす手はないか(武藤)